

## 株式会社福地工業 会社沿革

当社の創業は昭和21年であり林業機械、建設機械、農業機械の各メーカー・商社の特約店として販売サービス業務を行い地域経済の発展に寄与して参りました。

昭和38年アメリカ合衆国へ視察旅行に行った時のことです、昭和の初期に建設されたフーバーダム的大型建設機械による工事の様子を写した記録映画を見せられて、その機械の大きさと高性能には本当に驚きました。昭和38年当時でも日本では未だ大型建設機械は製造されておらず、中小型の建設機械しか作ることができませんでした。

そのころメーカーの保証期間は1年間でありクレーム故障は年間数回以上発生し販売サービスをする業者としては大変な苦勞をさせられていました。日米の技術力の格差の大きさをつくづく思い知らされました。しかし昭和40年代に入ると日本の機械技術も日進月歩の発達を遂げ物作り大国への道を歩み始めました。当時当社がディーラーとして取り扱っていた主な商品は次のようなものでした。

NTKブルドーザー・トラクター、マッカラチェーンソー、ジョンディアホイールトラクター、ユアサバッテリー、その他輸入農業機械、道内製農業機械

昭和48年諸般の事情によりディーラー業務を止めざるを得なくなり、当社の技術力・サービス力を生かすために農業機械の製造を始めることを決意しました。最初に手がけたのが碎土用ロータリーハローと牛舎に設置されるバークリーナーでした。その頃、建設機械の製造から撤退していた取引先メーカー技術陣の絶大なご協力と技術指導により当社が初めて製造した農業機械が、輸入品と比較しても性能・耐久性において優れており新規事業参入に成功することができました。

昭和50年代に開発製造した農業機械、施設機械は多岐にわたりました。列举すると、ポテトプランター、ポテトハーベスター、いも切り君、テッター、レーキ、ビートハーベスター、断熱気密スチールサイロ、トレンチャー、オニオンピッカー、トップアンローダー、給餌機等でした。

上記製品開発の中で特に印象に残っているのは帯広畜産大学、十勝農業試験場、北見工業大学のご指導を頂きながら開発した断熱気密スチールサイロです。福地工業は開発に失敗して会社をつぶすのではないかと揶揄される中、開発に成功した時の喜びは忘れられません。

昭和60年代以降、現在までの主力商品は牛舎関連が主で、以下の通りです。

フリーストール牛舎、農舎、フィードウオーター、ダンプボックス、バースクレーパー、スラリータンカー、クラウドゲート、コンポストシステム、ストール

創業者 福地 弘 (故人)